

[第1章]

# 観光未来戦略策定の趣旨



おはら祭り

## 観光未来戦略策定の趣旨

### 1. 観光未来戦略策定の背景

#### 1 これまでの取組み

本市は、平成14年に「人とまち 個性が輝く 元気都市・かごしま」を都市像とする第四次鹿児島市総合計画を策定し、基本目標「にぎわいと活力あふれるまち【産業活力都市】」を実現するため、新しい観光・コンベンション<sup>\*</sup>の創出に向けて、各面から取り組んできております。

その取組みにあたって観光については、

- 1 特性を生かした魅力ある観光地づくり
- 2 多様な魅力を持った観光ゾーンづくり
- 3 多彩なイベントの振興と誘致
- 4 観光客に優しい受入れ態勢の充実
- 5 きめ細かな情報の提供と誘致・宣伝の強化
- 6 広域的な連携と国際観光の展開

を基本的方向とし、  
コンベンションについては

- 1 各種大会や会議等の積極的な誘致・支援
- 2 コンベンション関連施設の整備促進
- 3 開催しやすい受入れ態勢の充実

を基本的方向としております。

\*コンベンション 会議、見本市、イベントなど特定の目的で多数の人々が集まること。

## 2 社会情勢の変化等

ここ数年の観光を取り巻く社会情勢の変化、また本市を取り巻く環境の変化は大きなものがあり、特に平成22年度末とされる九州新幹線鹿児島ルート<sup>※</sup>の全線開業は本市に大きなインパクトを与えることが予想されることから、これらの変化に的確に対応していくことが本市発展にとって極めて重要な課題となっています。

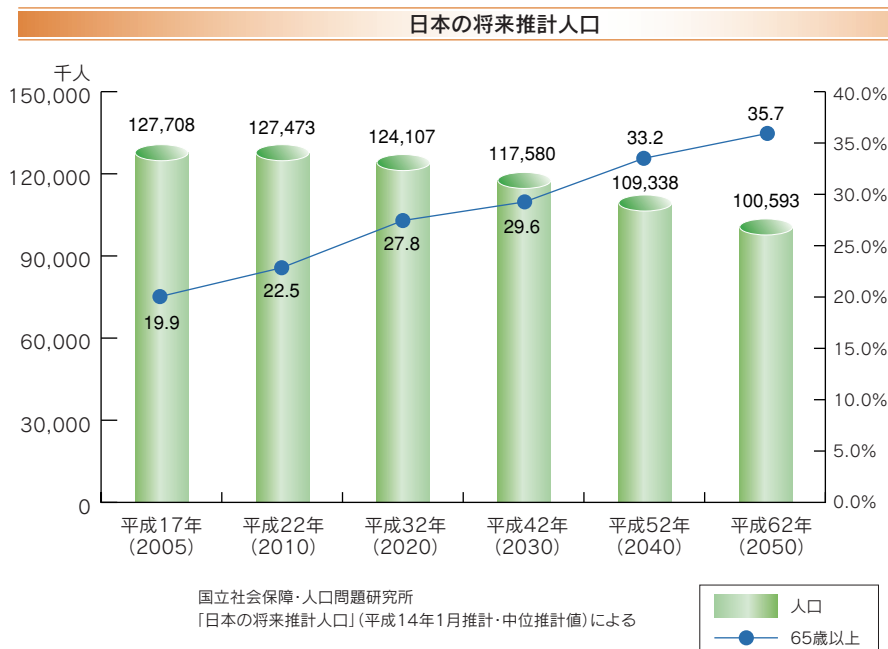
また、観光産業は、21世紀のリーディング産業<sup>※</sup>として、これまで以上に大きな期待がかけられています。

### 1 人口減少時代の到来

平成17年国勢調査によると、日本の総人口は前年の推計人口に比べて約2万人下回っていることが判明しました。総務省は「今後も変動は見込まれるものの、我が国の人口は減少局面に入りつつあると見られる。」と分析しており、平成14年発表の国立社会保障・人口問題研究所の予測より早く、人口減少過程に入ったこととなります。このように今後は、定住人口の増加が見込まれないことから、交流人口の増加を図ることが地域活性化にとって極めて重要となります。

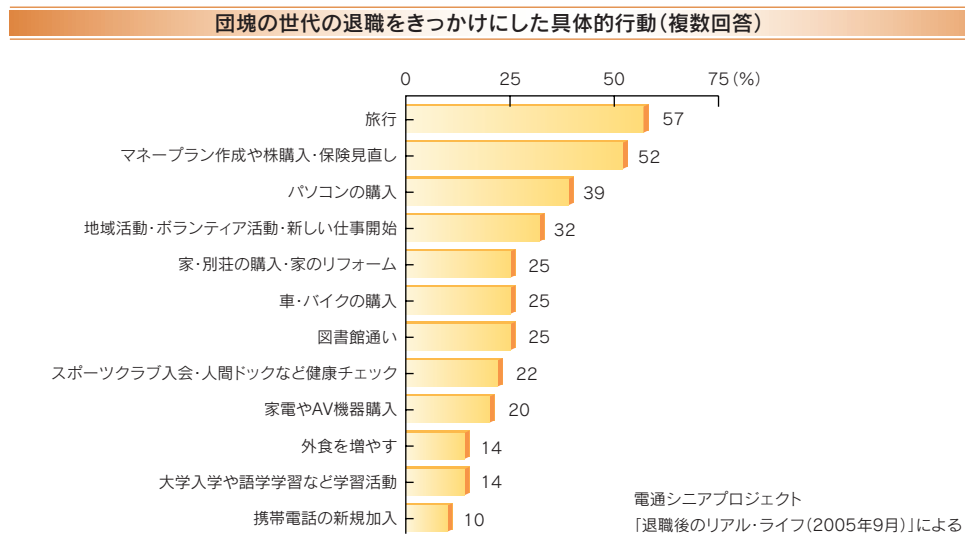
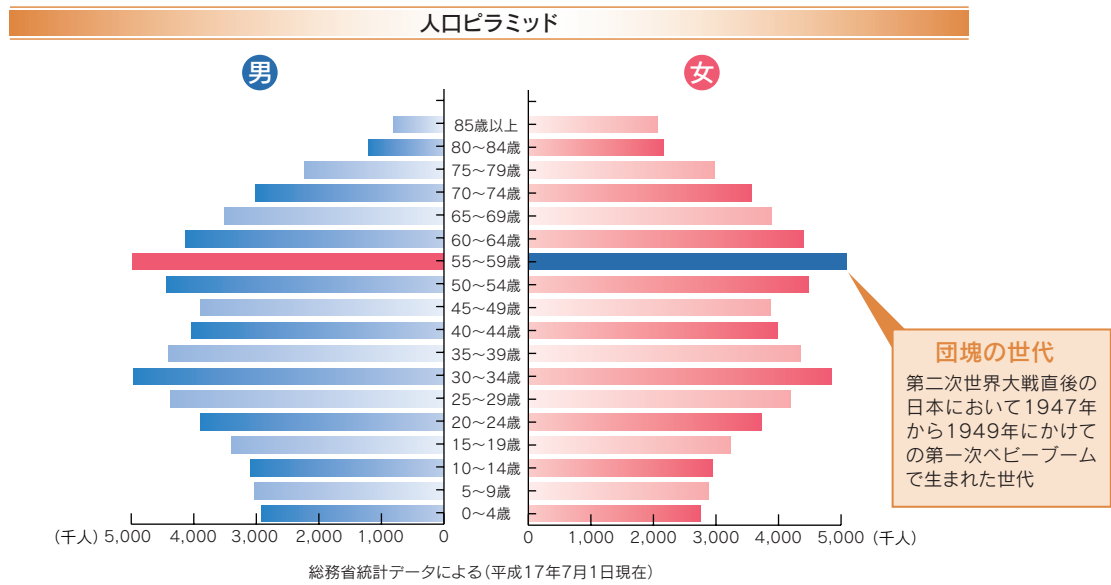
### 2 高齢社会の進行

高齢社会が進行する中、平成19年から団塊の世代<sup>※</sup>が60歳定年退職の時期を迎えます。今後、元気で活動的なシニア層が大幅に増加することが予想されることから、こうしたシニア層の観光マーケットはさらに拡大していくと予測されます。



※リーディング産業 戦略産業。主導産業。国や地域の経済成長の中核となる産業。

※団塊の世代 第二次世界大戦直後の日本において1947年から1949年にかけての第一次ベビーブームで生まれた世代。  
作家の堺屋太一が1976年に発表した小説「団塊の世代」によって登場した言葉。



### 3 価値観・ライフスタイルの多様化

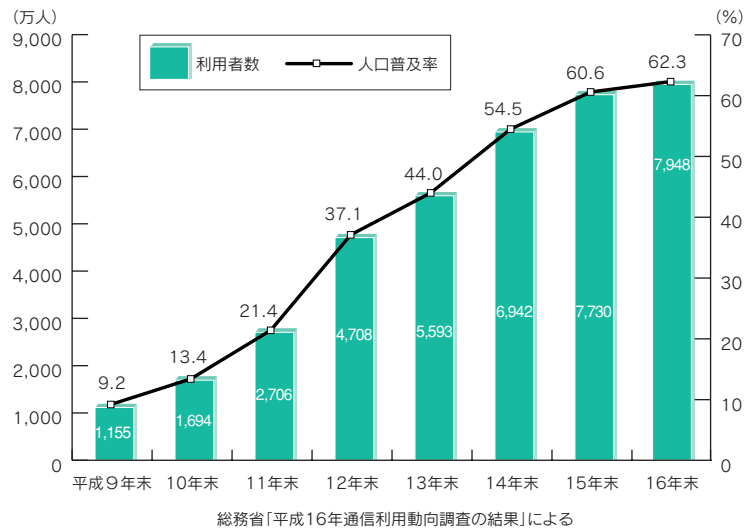
近年の価値観の変化やライフスタイル<sup>\*</sup>の多様化に伴い、観光の形態も団体旅行から小グループ・個人旅行へ、物見遊山型の観光から個人の趣味・嗜好を満喫する観光や参加・体験型の観光へシフトしつつあります。今後、この傾向はさらに顕著になると考えられます。

### 4 IT社会の進展

IT<sup>\*\*</sup>技術の進歩により、日本のインターネット人口は急速に伸びており、旅行関連サイト等からの情報収集は旅行先決定などの際の重要な手段となってきています。今後、その利用者はますます増加することが予想されます。

<sup>\*</sup>ライフスタイル 個人に合った生き方。無理をしない自己流の生き方。生活行動の様式。生活に対する価値観の型。  
<sup>\*\*</sup>IT Information Technologyの略。情報技術。情報通信分野を広くとらえて用いる語。

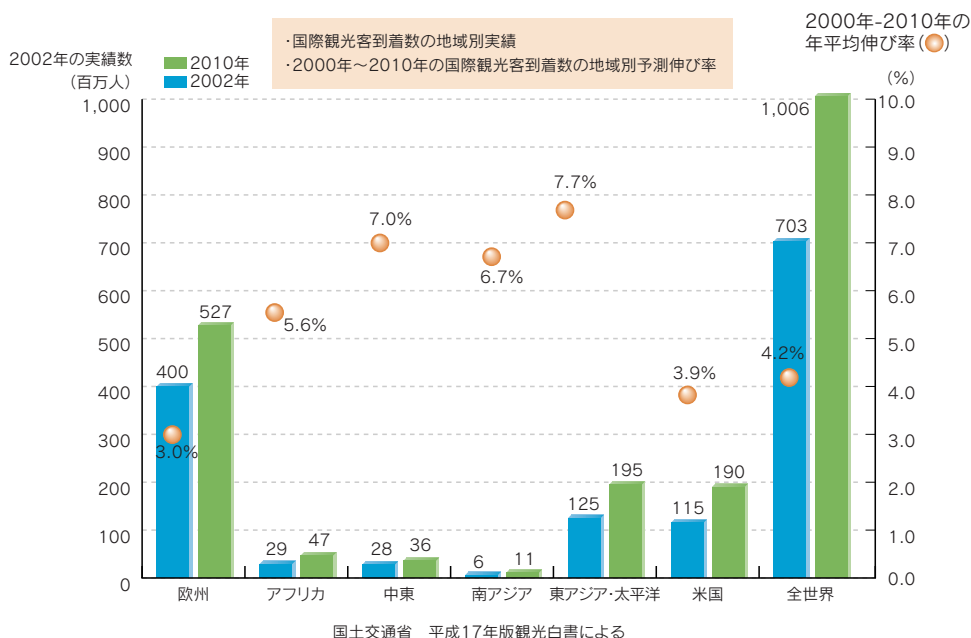
インターネットの普及率



5 グローバル化の進展

グローバル化<sup>※</sup>が進展する中、アジア諸国においては観光が拡大し、特に中国では平成12年に1000万人を超えた海外旅行者数が、平成16年には2850万人に達するなど空前の海外旅行ブームが巻き起こっていることから、世界各国で中国をはじめとするアジア諸国からの観光客誘致の競争が活発になっています。我が国においても平成15年から官民一体となった訪日促進キャンペーンであるビジット・ジャパン・キャンペーン<sup>※</sup>を実施、また中国等に対するビザ規制の緩和を行ったことなどから、今後、わが国への海外観光客は一層増加していくと思われます。

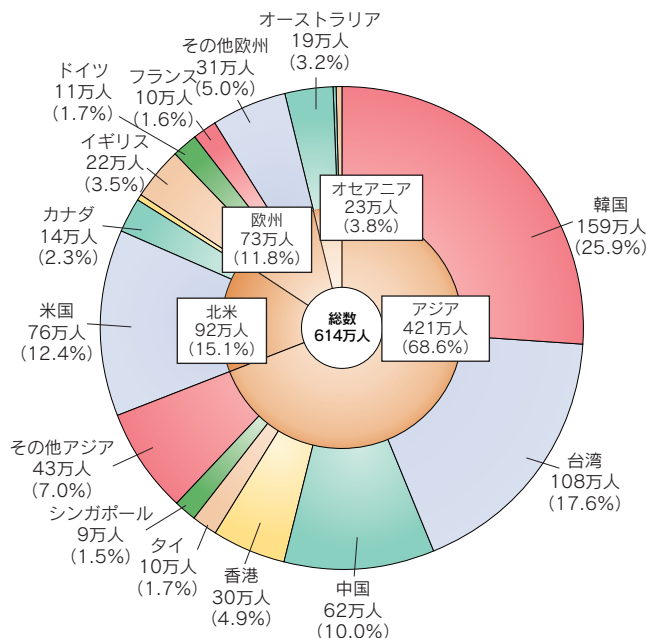
拡大する東アジア・太平洋地域の国際観光市場



※グローバル化 政治・経済・文化などの分野が地球規模で拡大すること。

※ビジット・ジャパン・キャンペーン 国土交通省を中心とした「グローバル観光戦略」の一つに挙げられる「外国人旅行者訪日促進戦略」の一環。訪日外国人旅行者の増大を目指して、国を挙げて取り組む戦略的なキャンペーン。

州別、国・地域別訪日外国人旅行者の割合(平成16年)



国土交通省 平成17年版観光白書による

## 6 本市を取り巻く環境の変化

平成16年3月、九州新幹線鹿児島ルートが部分開業しました。これにより博多－鹿児島中央間の所要時間は約2時間10分と開業前に比べて約1時間30分短縮されたことから、その利用者数は開業前の在来線特急に比べて2倍を超える水準となるなど、交流人口の増加に大きな影響を与えています。

同年9月、大型商業施設「アミュプラザ鹿児島」が鹿児島中央駅に開業しましたが、その後1年間で約1140万人が来店するなど、本市の一大集客施設となり、また、平成17年4月に鹿児島港本港区にオープンした商業施設「ドルフィンポート」も3か月で約90万人と目標を4割近く上回る来場者があるなど、順調な滑り出しを見せています。これらの施設のオープンは、鹿児島中央駅地区、いづろ・天文館地区、ウォーターフロント<sup>※</sup>地区に回遊性を生み出し、本市中心市街地のにぎわい創出に大きく寄与しています。

平成16年11月、本市は吉田町、桜島町、喜入町、松元町、郡山町の隣接5町と合併、人口は60万人を超え、面積も546.95km<sup>2</sup>と約2倍となり、その結果、田園地帯や森林資源、海岸線など豊かな地域資源が加わりました。

さらに、九州新幹線鹿児島ルートは平成22年度末に全線開業とされており、開業後は博多－鹿児島中央間が約1時間20分で結ばれることになることから、本市に極めて大きな影響を与えることが予想されます。

## 7 観光産業への期待

観光は第一次産業から第三次産業まで様々な業種に関連する裾野の広い総合産業であり、交流人口の増大を促し消費や雇用など、その経済波及効果は極めて広範なものがあります。

また、観光産業の主要部分を地元の人々や企業が担っているほか、地域資源を見直すことにより、それ

※ウォーターフロント 海・川など水辺に臨む土地。水ぎわ。

が新たな観光資源になり、観光振興につながるという点において、観光は地域に根ざした地域産業であるとも言えます。

さらには、観光は国内外から多くの人々が往来することにより成り立っており、特に今後は国境を超える産業、海外との交流に支えられるグローバル産業という側面も持つことになると考えます。

このように様々な特性を持つ観光の振興を図ることは、地域経済の発展に大きく寄与するとともに、これに伴う人や情報の交流は、まちに活気を与えるなど、地域活性化の起爆剤になることから、観光産業は21世紀のリーディング産業になりうるものとして期待をされています。

## 2. 観光未来戦略策定の目的

### 1 策定の目的及び位置付け

近年の観光や本市を取り巻く環境の変化、また、平成22年度末とされる九州新幹線鹿児島ルート  
の全線開業を見据えるとともに、観光産業に対する大きな期待を踏まえると、観光を視点とした新たな  
まちづくりのための計画を策定し、その実現に向けて官民一体となって取り組んでいくことが必要とな  
ってきます。

こうしたことから、この度、本市観光振興の指針となる「鹿児島市観光未来戦略」を策定することと  
いたしました。

この戦略は、上位計画である第四次鹿児島市総合計画の観光分野の目標  
の実現に向けて、観光振興を図るための基本的な計画であり、行政・企業・  
市民など観光にかかわるすべての人々の行動指針とするものです。

### 2 観光未来戦略の構成等

#### 1 構成

観光未来戦略は、観光の動向、本市の特性や課題などを踏まえて、基本コンセプト<sup>\*</sup>に基づく4つの基本方  
針と15の重点戦略、さらには戦略の推進施策等で構成されます。

#### 2 目標年度及び計画期間

総合計画の目標年度は平成23年度、計画期間は平成14年度から平成23年度までの10か年としているこ  
とから、観光未来戦略の目標年度は平成23年度、計画期間は平成18年1月から平成23年度末までの約6年  
間とします。

<sup>\*</sup>コンセプト 考え。概念。